

徒然想

温かい飲み物が美味しく感じる季節になりました。私は特にコーヒーが好きで、1日に5杯程度は飲んでしまいます。先日、お客様のところに伺った際にブラジルの現地豆で淹れたコーヒーを頂きました。それは、実に味わい深いものでした。詳しい知識など無いのですが、苦味も「深い」という表現がぴったりな美味しいコーヒーでした。ちなみに、漢字では珈琲と書かれます。「珈」は「髪飾り」という意味で、「琲」は「2列の玉飾り」という意味の漢字だそうです。コーヒーの元の赤い豆が玉飾りに似たところと、王侯貴族の飲み物という高級感を出すため、この字を当てたようです。さて、ちょっと休憩してコーヒーなど飲みながら、新しい橋を渡る計画など考えてみるのも良いかもしれません。

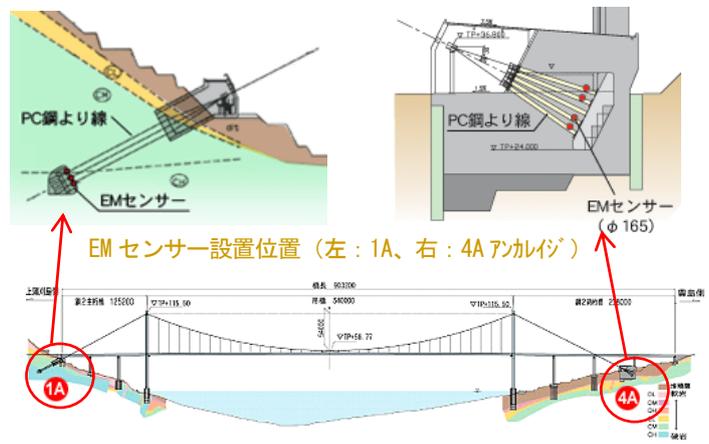
Technical Topics KRC技術情報

EM センサーによる豊島大橋ケーブル導入張力管理(豊島大橋開通)

これまで、本レポートでEMセンサーによるケーブル張力管理についてご紹介してきました豊島大橋が、11月18日に開通しました。豊島大橋の大きな特徴としては、PC鋼より線により、ケーブル張力をアンカレイジに伝えるPC定着方式を採用していることと、蒲刈側1Aアンカレイジで日本初の岩着アンカレイジを採用したことが挙げられます。岩着アンカレイジとは、マスコンクリートではなく抵抗体となる岩着自体にプレストレスを導入し、岩盤の引き抜き耐力によりケーブルを支える構造で、注目度の高い事例となっています。

豊島大橋は、離島振興を目的として計画された安芸灘諸島連絡架橋の七つ目の橋です。これにより、本土側の呉市川尻町から愛媛県の岡村島まで七つの島が繋がりました。このルートは、安芸灘地区発展への願いを込めて「安芸灘とびしま海道」と名付けられています。これまで、天候に左右されやすい船による交通手段に頼っていた離島の生活に、夜間の救急搬送や消防車の応援など、さまざまな安心が増えることとなります。こうした地域の暮らしや産業を支える橋の安全と、皆様の安心のために当社の技術が少なからず関わっている事に、大きな喜びを感じると同時に計測技術が社会に果たすべき責任の重さにも改めて気を引き締めています。

EMセンサーはPC鋼より線の張力導入時に張力管理を行ったものですが、今後のモニタリングも考慮してそのまま設置してあります。橋梁の維持管理に向けた計測基準の、ひとつの可能性を示す貴重な事例となっていくことと思います。弊社も精一杯、尽力を続けて参ります。【詳細はこちら http://www.krcnet.co.jp/f_works03.htm】



豊島大橋側面図
※側面図は豊島大橋ホームページより転載しています。



(株)計測リサーチコンサルタントへ問い合わせは、
電子メール: krc@krcnet.co.jp

ホームページ: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。